

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000076		
法人名	医療法人わたなべ内科クリニック		
事業所名	グループホーム桜の木	ユニット名	
所在地	福岡県柳川市矢加部230-4		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成30年1月23日	評価確定日	平成30年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のんびりと」「その人らしく」「おだやかに」をモットーとし、柳川の自然豊かな環境の中で、入居者様がその有する能力に応じ、その人らしく暮らすために職員一同が、きめ細やかな良質のケアを行うよう努めています。家庭的な生活の中から安心感・信頼感が生まれ認知症が緩和されるようお手伝いいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム桜の木”は「医療法人わたなべ内科クリニック」が母体法人である。院長先生の往診も週2回あり、看護師、PT(リハビリ)、栄養士等との連携もできており、誤嚥性肺炎のリスクを軽減するため、歯科衛生士から口腔内のブラッシング指導も受けている。地域交流も継続し、幼稚園児や学童保育の子供達との交流も楽しみの1つになっており、地域の作業所との交流も深め、ホームで一緒にホットケーキ作りを楽しまれた。29年度も「run伴」に参加し、地域の方も応援で参加して下さい、認知症についての情報発信に繋がったり、外食の機会も増やし、季節の花見や足湯なども楽しまれた。今後も職員の良い所を見つけ、褒め合える環境を作ると共に、ホーム内の課題を「見える化(明文化)」し、根本にある原因を丁寧に分析する事で、真の解決策に繋げていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のんびりと、その人らしく おだやかにをモットーに利用者の方が安心して暮らせるよう 管理者 スタッフは理念を共有し実践していくよう努めている。	朝と夕方、理念を唱和している。理念にある「その人らしく」を大切に、ご本人が好まれる事を把握し、日々の役割や楽しみを増やしている。ホーム長は「のんびり」と「放置」の違いを職員に伝えると共に、職員の仕事優先にならないように伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに子供会を招待したり、町内の行事にできるかぎり参加するようにしている。	お宮清掃や美化運動に職員が参加している。敬老の日に幼稚園児が来られたり、作品をプレゼントして下さった。ホームの夏祭りに子供会を招待したり、学童保育の子供達との交流もある。和音アンサンブルの方や「みやまひよっこ隊」がボランティア(踊り)で来て下さり、楽しいひと時を過ごされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「run伴」にホーム全体で参加し認知症について情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加者の皆様から頂いた、ご意見を実践に活かすよう努めている。	会議のご案内を郵送すると共に、事前に電話連絡をしている。外部評価結果も報告し、「日々精進して、なるべく事故がないように」等のアドバイスを頂いた。ホームの取り組みへのご意見も頂いており、次回の会議で進捗状況を報告すると共に、テーマに応じたゲストを検討していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や包括支援センターに分からない事があれば、連絡して相談に応じてもらっている。	広域連合に事故報告を提出し、「見守り強化」等の指導を受けている。ホーム長が市役所にホーム便りを持参すると共に、ホームに訪問して下さるボランティアの相談等を行っており、親身にアドバイスを頂いている。ケアマネの方も更新申請時に情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い身体拘束をしないケアが実践できるよう職員全員で意識統一を図っている。	転倒防止の対策を家族と話し合い、ベッド下にマットを敷いている方もおられる。感情が不安定になる時は職員が寄り添い、原因分析を続けている。主治医からのアドバイスも頂き、対応方法の検討を行うと共に、家族と過ごせる時間も作られている。	職員は行動障害が見られた時の原因分析を行い、対応策の検討も地道に続けてこられた。今後は「身体拘束は絶対にしない」という意識を職員全員が持ち、更なる原因分析、対応策の検討を深めていく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い虐待について学び、より良いケアが実践できるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員勉強会にて成年後見制度や自立支援事業について学んでいるが、実践での機会があまりなく活用できていない状態である。	チーフ(ケアマネ)が中心となり、ホーム内で権利擁護の勉強会をしている。パンフレットを準備し、入居時に制度の説明をしている。制度を利用している方もおられ、後見人との情報交換を続けている。家族から相談を受けた時は、再度、制度の説明をさせて頂く予定にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の方が納得されるまで時間をかけて説明を行っている。また、GHに家族が来られた際にはご意見等がないか尋ねている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置し、匿名で投函できるようにして御家族から意見が聞こえるようにしている。	家族には遠慮がある事も理解しており、面会時に要望などを尋ねている。状況報告書(6回/年)を担当職員が作成し、「桜の木だより」も毎月家族に郵送している。桜の花見の時期に親睦会を行ったり、1つのユニットは年末に親睦会を行い、家族同士の交流の機会になっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い職員から意見を聞く機会を設けている。	7つの委員会活動も続けている。ユニット個々の職員のチームワークは良く、職員の意見やアイデアを基に日々のケアに活かされている。両ユニット合同会議で勤務希望を確認し、希望の調整を続けている。必要に応じて、代表者(事務長)と職員の個別面談も行われている。	2つのユニットがあり、合同会議も行われているが、今後は更に両ユニットの情報(ご利用者の情報等)を共有すると共に、各ユニットの職員の真の想い、希望等を直接聞いてもらえる環境が増えていく事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は必要に応じてスタッフと個別面談をおこなっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に関しては、資格 年齢を問わずやる気を重点におき、採用を行っている。	採用面接は、事務長やホーム長、チーフ等が行い、お人柄(優しさ、穏やかさ等)を大切に採用している。開設当初からの職員も勤務しており、職員の得意な分野(料理、書道等)を発揮して頂いている。優しい職員が多く、今後も職員の長所を引き出し、頑張りを褒めていく環境作りを期待したい。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月一回の職員会議や研修で人権について学んでいる。	毎月の会議で、院長や事務長の言葉「入居者への言葉かけには敬いの気持ちを持って」等を職員に伝えている。ホーム長からは「相手の気持ちを先に考える事や、ご本人を尊重したケアを行う事」を伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに勉強会の担当をあて、発表してもらっている。また、希望する研修に参加してもらうようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間で連絡を取り合い、定期的に交流会を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族やケアマネジャーから情報収集を行っている。また、スタッフ間で情報を共有し入居直後の不安を取り除くよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談では、家族が納得いくまで説明を行い不安がないよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、他のサービスに関しても説明し家族の要望をしっかりと把握し受けとめ支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物たたみ等入居者の方には出来ることをして頂き、共に支えあう関係性を築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の案内や外出 外泊の呼びかけを行い、ご家族との交流機会を増やすよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅にいるペットに会いに行ったり、友人達がGHに遊びに来られ、なじみの関係性が継続できるよう努めている。	ご利用者や家族から生活歴を教えてください、センター方式に記録している。自宅の近くをドライブしたり、自宅のペットに会いに行かれた方もおられ、教え子がホームに来られた方もおられる。家族と馴染みのお店で食事をされたり、職員と馴染みの美容室に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の相手や関係性に配慮して生活の場をつくり提供できるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された場合等は定期的に連絡するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとり、お一人の暮らし方をスタッフ間で意見交換を行い実践し、その方が充実した生活が送れるようにしている。	日々の生活の中で要望を伺っている。「家に帰りたい」等の気持ちに寄り添い、家族に協力して頂いたり、気分転換できるように努めている。意思疎通が難しい方は表情や行動から思いを察し、難聴の方はホワイトボードを使用しているユニットもある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーから情報収集を行い、その情報をスタッフで共有し、ケアの向上に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや情報ノート、日々の記録 カンファランスを参考に現状の生活を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファランスを月に一回行い、スタッフ皆でより良く生活できるよう話し合いを設けている。	前回の外部評価以降、職員の頑張りもあり、ご利用者の「できること」「やりたいこと」をアセスメントし、家族とケアプランを話し合う時間を増やしてこられた。役割や楽しみ(茶碗拭き、洗たく物たたみ、リハビリ、ドライブ等)も盛り込み、日課表(3表)も作成し、短期目標も具体化するよう努めている。	認知能力の把握や行動障害の原因分析を続けている。今後は更にADL(日常生活動作)等の能力(立位時間・歩行可能な歩数等)を具体的に記録すると共に、リスクマネジメントも強化し、事故予防に活かしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニットごとにノートをつくりケア くすり等の変更は記載し、スタッフが把握したらサインをするようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型のデイサービス ショートステイを行っており、ニーズにあわせたサービスをお知らせし提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域の方々からの情報提供にて暮らしのサポートを実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GH入居時に基礎疾患の有無等を把握し、体調の変化に早急に対応が行えるよう、わたなべ内科クリニックで主治医の統一を行っている。	往診が週2回ある。ホームに看護師が常勤し、病院の看護師やケアのPTや栄養士からもアドバイスを頂いている。他の医療機関にも受診でき、眼科等は家族や職員が受診介助している。体調変化時や怪我をされた時の家族への連絡を確実に行うよう、マニュアルの徹底を職員に指導している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師がバイタル測定 申し送りに入り利用者の状態を把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療機関との情報交換を密に行いムンテラやカンファランス等へ参加し情報の共有化も実施している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の説明を行っている。また、重度化や終末期には主治医が中心となりチームとしてケアを行うよう取り組んでいる。	夜間の急変時は救急車で搬送する事になっている。契約時の説明内容を含め、今後も改めて「ホームの看取りの方針」を明確にしていける事を期待したい。「ホームで長く」と希望される方もおられ、重度化した場合は主治医と連携し、ご利用者と家族の意思を尊重したケアが行われており、体調に応じて特養に入居された方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の対処法を学んでいる。また、AEDの講習会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。また、消防団に協力体制を依頼している。	消防署職員と昼間想定訓練をしている。訓練のシナリオを作らず、出火場所も職員に伝えず、緊張感のある訓練が行われている。災害に備え、懐中電灯2本、ラジオ2台、非常食等を準備し、消防団との協力体制もある。ホーム横の堀の増水対策も含めたマニュアルも作成している。	避難場所は母体病院であり、非常食の備蓄の相談を行う予定である。夜間想定訓練方法を検討すると共に、近隣住民に訓練の参加を依頼予定であり、筑後地区の施設間で協力体制の検討を行いたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権やプライバシーの勉強会を実施し丁寧な言葉遣いができるよう周知している。また、スタッフ間でも注意しあえる関係作りを心掛けている。	優しく穏やかな職員が多い。ご利用者の情報で触れてはいけない事を理解し、ご利用者が不安や混乱に陥るような声かけをしないように努めている。羞恥心への配慮も行い、同性介助も行われている。言葉遣いに配慮し、個人情報管理も努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でやりたいことを尋ね、自ら要望されることを実践できるよう取り組んでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出支援や慰問の機会をたくさん設け楽しく生活が出来るよう取り組んでいる。また、理念を念頭におき支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時にご本人に服の好みを尋ね、着ていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って頂いたり、後片付けの手伝いをお願いしている。また、前もって献立をお伝えしている。	食事委員会が献立を作り、栄養士がチェックしている。昼と夕食は主に調理担当の方が手作りされており、ホームの畑で野菜を収穫し、ご利用者もモヤシの根取り、ツワや玉ねぎの皮むき、盛り付け、下膳、食器拭き等をして下さっている。嚥下や咀嚼状況を確認し、トクシ食等も作られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立は栄養士が確認をし、アドバイスを受けている。また、アセスメントをとり個々の状態にあった食事形態を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。協力歯科が往診をされ治療や検診をしていただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンのデータをとり排泄支援に活かしている。	ご利用者の排泄能力をアセスメントしている。下着(ネットパンツ等)を着用し、排泄が自立している方もおられる。排泄感覚に応じて誘導を行い、トイレで排泄できるように立位訓練を続けており、夜間のみポータブル利用の方もおられる。水分補給に努め、寒天ゼリーも手作りし、快便の方も多い。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や寒天ゼリーを個々に合わせて提供し、排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴をして頂くよう取り組んでいる。	希望があれば毎日の入浴も可能である。湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれたり、歌を唄われる方もおられ、家族から頂いたミカン、菖蒲、柚子を湯船に浮かべ、香りを楽しまれている。体調に応じて2人介助を行い、羞恥心の配慮もしており、できる所はご自分で洗って頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握しその方に応じたケアを提供している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬に関して、目的や副作用の説明があり連携体制を築いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にアセスメントをとり、できること やりたいことをして頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブや個々の希望に沿って外出支援を行っている。	29年度は職員の努力で、外食を増やしてこられた。佐賀ゆめタウンやジョイフルで食事をされたり、ケーキ屋にもお連れしている。大藤見学や菖蒲、向日葵、日吉神社の菊見をされたり、道の駅(みやま、船小屋等)で催し物や足湯を楽しまれた。“さげもん”見学や筑後広域公園でのピクニックに行かれています。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお預かりして買い物に行き、好きなものを買ってもらうようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やなじみの方にTELをして、いつでも連絡できるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはGHで育てた花を季節ごとに飾っている。また、クラシックや懐メロ等の曲を流し過ごして頂いている。	日中はリビングで過ごされる方が多い。ご利用者の意思疎通能力がユニットで異なり、職員が間に入り、楽しく過ごせるように努めているユニットもある。台所は対面式で、ご利用者との会話を楽しまれたり、レクや歌、体操などをされている。廊下には写真や年表などを貼り、ご利用者の誕生日や年齢を掲示している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数のソファや椅子を配置し、くつろげる空間を提供している。また、定期的に配置を変えている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物を持参されるよう説明をしている。	畳ペットは備え付けで、電動ペットを使用する方もおられる。タンスや椅子等と共に、家族が花の本や季節に応じてツリー等を持ってきて下さる。写真やぬいぐるみも飾られ、仏壇を置かれている方もおられる。今後も温湿度計等の設置を検討していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは大きい文字で表示している。 簡易手すりを設置。 リビングに雑誌や新聞を置いている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			